

原三溪生誕150年記念 原三溪市民研究会第5回シンポジウム 原三溪 ～その生き方を考える～



三溪園ボランティアによる呈茶（12:00～13:15）



およそ100名が集まりました。



市川春雄氏「岐阜と富太郎」



川幡留司氏「三溪園の生活」



廣島亨氏「三溪の選択」

第5回シンポジウムは原三溪市民研究会と三溪園の共催で三溪園の鶴翔閣で開催されました。

まず市川春雄氏（原三溪・柳津文化の里構想実行委員会事務局長）が、「青木富太郎から原三溪」への、「予言、つばみ・兆し、赤い糸、決意」の4ステップを岐阜在野の資料から紹介しました。川幡留司氏（三溪園参事）には、三溪園に出入りした画家や数寄者の名を挙げながら、三溪の生活ぶりを語っていただきました。廣島亨氏（原三溪市民研究会会長）からは、富太郎が原家に入り婿すること、長男善一郎を善三郎の養嗣子にすること、生糸事業主として原商店を合名会社にして人事を刷新したこと、などの選択を積み重ね、選んだ道をどう歩いたかを考えさせる発表がありました。原三溪市民研究会が実施した三溪園クイズの来場者からのメッセージと、カーフリーデーでの街頭アンケートの結果は、「みんなの想う原三溪」として久保会員が報告しました。

パネル・ディスカッションでは猿渡紀代子氏（原三溪市民研究会顧問）のコーディネートにより、各パネリストから補足があっただけでなく、廣島氏が三溪作の漢詩を詩吟で披露しました。



久保会員「みんなの想う原三溪」



「原三溪市民研究会 9年の歩み」を展示